

研究に関するお知らせとご協力をお願い

2023年 8月 24日

横浜医療センター 産婦人科では、下記の研究を行います。
この研究は条件を満たす患者さん全員を対象といたします。もし、この研究への参加を希望されない場合には、対象とはいたしませんので、お問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、診療を受ける上で不利益を被ることはございませんのでご安心ください。

■研究名

『当院の腹腔鏡下婦人科手術における手術時間延長に影響する因子についての後方視的研究』

■研究代表者

国立病院機構横浜医療センター 産婦人科部長 最上 多恵

■研究の対象となる方

2016年4月1日から2023年8月24日までの期間に、当院産婦人科で腹腔鏡手術を受けた患者様

■ご協力頂く内容

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則り、個人情報厳重に保護した状態で行います。

■研究の概要

研究の目的及び意義

婦人科腹腔鏡手術は傷が小さく術後合併症が少ない特徴がありますが、開腹手術に比べて手術時間が延長する傾向があります。

そこで、当院における婦人科腹腔鏡手術の手術時間の実態と延長する要因について解明することを目的として本研究を行います。

研究の期間

2023年 倫理審査委員会承認日 ～ 2025年 3月 31日

研究の方法

当院の電子カルテから診療情報（診断名、年齢、身長、体重、妊娠分娩歴、既往歴、合併症、術式、腫瘍の大きさと数、子宮の大きさ、手術時間、術中所見など）を統計的に解析します。

個人情報等の取り扱い

電子カルテシステムから抽出されたデータに、電子カルテを直接閲覧して得られた追加データを入力したのち、通し番号を割り当てて匿名化して解析を行います。

直ちに個人を特定できる個人情報を削除された形で提供します。

利益相反に関する状況

開示すべき利益相反は特にありません。

研究に関する情報公開の方法

学会発表・論文作成が行われます。

■ 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応

本研究は既存の診療録情報を利用した後方視的研究であり、対象者への文書や口頭によるインフォームドコンセント（説明を受け納得したうえでの同意）取得は困難であるため、相談に対しては個別に対応します。お問い合わせ先までご連絡ください。

■ お問い合わせ先 ※平日 8時30分～17時15分

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター 産婦人科

産婦人科部長 最上 多恵（当院 研究責任者）

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2 電話 045(851)2621（代表）